

図表7-19 昭和～平成時代の主な風水害、土砂災害

年月	概要
昭和9.9	室戸台風。室戸岬に上陸。上陸時の中心気圧911.6hPa、日本では観測史上3位。甲浦港海岸で高潮被害。近畿地方を中心に被害甚大、死者2,702人、行方不明334人、床上・床下浸水40万棟以上
昭和20.9	枕崎台風。室戸台風、伊勢湾台風と並ぶ昭和三大台風。全国で死者2,473人、行方不明者1,283人、住家損壊89,839棟、床上・床下浸水273,888棟
昭和34.9	伊勢湾台風。室戸台風、枕崎台風と並ぶ昭和三大台風 野根海岸で湛水面積100ha、72戸が流失又は全壊。災害救助法適用
昭和36.6	集中豪雨。突如で6日間の総雨量が1,089mmを記録、平地では日本最大。野根では日降水量460mm
9	第2室戸台風。室戸岬で観測史上2位の最大瞬間風速84.5m。甲浦港海岸で高潮被害。近畿地方を中心に被害甚大、全国で死者194人、行方不明者8人、床上・床下浸水36万棟以上
昭和38.4	集中豪雨。鴨田橋流失。淀ヶ灘の国道土砂崩れ多く、オチズで通行止め
昭和40.9	台風23号。室戸岬で台風として日本の観測史上最も強い最大風速69.8m、史上5位の最大瞬間風速77.1m。室戸市と東洋町に災害救助法適用
昭和41.5	集中豪雨。3日間の雨量は佐喜浜908mm、野根670mm
昭和45.8	土佐湾台風。高知県全体で死者・行方不明者13人、全半壊4,430棟、床上・床下浸水40,293棟。甲浦沿岸で最高潮位145cm、佐喜浜沿岸で188cm
昭和50.11	野根東町で藤田スケール〔F1〕の竜巻が発生。住家に大きな被害
昭和62.8	落雷でサーファー6人死亡、6人負傷
平成元.8	台風17号。佐喜浜で7.13mの高潮・高波
平成6.9	台風26号。佐喜浜で6.61mの高潮・高波、野根海岸で離岸堤1基被災
平成9.7	台風9号。佐喜浜で8.73mの高潮・高波、野根海岸で越波、家屋破損等の被害
平成10.5	集中豪雨。押野川など中小の川が氾濫し激甚災害指定（同年9月の高知豪雨とは異なる）
平成11.7	「フェリーむろと」が甲浦港に入港しようとした際、台風8号の強風にあおられて防波堤に接触後、浅瀬に乗り上げて座礁
平成13.8	台風11号。佐喜浜で6.76mの高潮・高波、野根海岸で広範囲の越波被害
平成15.8 11	台風10号。強風により屋根が破損、住宅半壊2棟、行方不明1人 豪雨災害。24時間最大雨量632mm、時間最大雨量117mmによって国道55号の野根中の谷から佐喜浜町入木字猪崎間で土石流
平成16.6 10	台風4号。東洋町字チャエンの国道55号の山側斜面から落石 台風23号。土佐清水市に上陸。室戸市菜生で防潮堤破壊により、公営住宅が越波で半壊し3人死亡、半壊11戸、床下浸水26戸
平成18.4	大雨。谷川の越流による被害。床下浸水が名留川と浦で各1棟
平成20.6	大雨。野根地区で床下浸水1棟
平成23.9	台風12号。町内でも強風により屋根の一部が損壊する等、住家一部損壊。北川村平鍋で大規模な土砂災害

注：藤田スケール〔F1〕…藤田（シカゴ大学）氏による竜巻の強さの評価設定。F1は風速33～49m/s

資料：「東洋町地域防災計画」（平成28年12月）

四 南海地震対策

南海地震と津波の歴史

地震が多発しており、地震国といわれる日本にあって、東洋町を含め高知県も地震とともに津波に見舞われることがしばしばである。特に最近、南海地震や南海・東南海・東海地震が連動する南海トラフ巨大地震への関心が高まってきている。過去をさかのぼってみると、南海地震や南海トラフ地震が幾度も発生しており、海に面しているため津波の被害も多いことがわかる(図表7-22)。通常、南海地震あるいは南海トラフ地震といわれている地震は、古文書に記載されていることから考えて、白鳳・仁和・康和・正平(康安)・慶長・宝永・安政、そして、昭和南海地震を加え、七世紀後半から二〇世紀半ばまでに八回とされる。これは現段階のことであり、今後、古文書の発見などによって更新されることもあり得る。

江戸時代以降の四回は、おおむね一〇〇〜一五〇年の間隔であったため、二一世紀前半で発生することが危惧されている。また、これ以外にも四

図表7-22 歴史的な地震・津波

地震名	発生年	規模	概要
白鳳地震	684年 (飛鳥時代)	M8.4	土佐で甚大な津波被害。『続日本記』に「土佐国の田苑五十余万頃(50万町、約12Km ²)没して海となる」と記されている
仁和地震	887年 (平安時代)	M8.0~8.5	震源域は阿波・紀伊沖。津波も伴い、建築物の倒壊、多くの死傷者を出した
康和地震	1099年 (平安時代)	M8.0~8.3	土佐で田約1,000haが海に沈む津波。2年前に東海・東南海地震と推定される永長地震
正平地震 (康安地震)	1361年 (室町時代)	M8.5	震源域は阿波・紀伊沖。津波で土佐にも被害
慶長地震	1605年 (江戸時代)	M7.9	東海・東南海・南海連動型地震。大津波で、房総半島から土佐にかけて被害甚大。宍倉から室戸岬にかけての死者数千人
宝永地震	1707年 (江戸時代)	M8.6	南海トラフのほぼ全域にわたってプレート間の断層破壊が発生。震央は潮岬沖。10回余の大津波が寄せ、高知県沿岸の津波は5~26m
安政南海地震	1854年 (江戸時代)	M8.4	東海・東南海・南海連動型地震。震源は阿波・紀伊沖。約32時間前に浜名湖沖を震央とする安政東海地震が発生。津波は宍倉で5~6m、室戸3.3m
昭和南海地震	昭和21年 (1946)	M8.0	震源域は潮岬沖。高知県全体で死者・行方不明者679人、家屋流失500棟以上。甲浦は津波で軒先近くまで浸水し、1m沈下。野根は津波の被害はなかったものの、揺れによる家屋の倒壊が著しく、939戸のうち全壊96戸、半壊435戸
チリ地震	昭和35年 (1960)	M9.5	太平洋岸の広い地域に1~4mの津波。甲浦で52cmの津波。全国で死者・行方不明者142人。県内は負傷者1人、全壊7棟
東北地方 太平洋沖地震	平成23年 (2011)	M9.0	震源は三陸沖。死者・関連死合わせて2万人以上。高知県の津波は須崎港湾奥の桜川で278cm、室戸で73cm

資料：「東洋町地域防災計画」(平成28年12月)ほか

国や高知県に影響のあった地震として、八世紀前半から現在までマグニチュード7前後の地震がいくつも見られる。

東洋町の昭和南海地震の様子 昭和南海地震は津波を伴い、四国、九州、中国、近畿、中部地方と広範囲に及ぶ大災害であった。東洋町(合併前)の様子が、「南海大震災史」(高知県発行)に見られる。

当時の野根町では、震源には比較的近いが、面しているのが外海のために津波の被害はなかった。しかし、砂丘地や野根川の旧流路に当たる地域では、家屋の倒壊が多かった。その他の地域は、大部分が地盤のかたい山地にあるため、被害は大きくはなかった。一方、当時の甲浦町では、津波は港の奥に浸入し、軒端近くまで浸水した。しかし、家屋は山沿いに建っているために流失は免れ、津波は三回目が高かった。多少地盤が沈下しているかもしれないが、甲浦は地盤がかたいので、地震による被害は僅かであった。